



乳がん（腫瘍2 cm以下）手術における温存手術の割合

<項目解説>

乳がんの治療法の1つに乳房温存療法があります。この治療法の目的は、乳房内での再発率を高めることなく、美的に患者さまが望む乳房を残すことにあります。

そのためには、乳がんの広がりを見極め、それをもとに適切な乳房温存手術と術後の放射線治療を行うことが重要です。

<当院の実績>

【平成25年度】	66.0%	(29/44)
【平成26年度】	68.9%	(31/45)
【平成27年度】	59.1%	(26/44)
【平成28年度】	67.4%	(31/46)
【平成29年度】	61.1%	(11/18)

<当院の自己点検評価>

腫瘍径2 cm以下の乳がん手術件数は約40件前後で推移しており、温存手術の割合もほぼ一定で推移しています。腫瘍径が2 cmを越える乳がんでも術前化学療法あるいは術前ホルモン療法を行うことで温存術が可能になる場合があります。

当院は多数の専門診療科を有しており、乳がん治療に際しても乳腺外来を導入し、総合力を活かした治療を行っております。

<定義>

- ・乳がん（術前診断T1）に対して施行された手術の算定件数

温存手術 K4762、K4764

非温存手術 K4761、K4763、K4765、K4766、K4767

<算式>

分子：温存手術件数

分母：温存手術件数 + 非温存手術件数